

〈資 料〉

## ある元日本軍「慰安婦」の回想 (4)

——安点順さんからの聞き取り——

吉 見 義 明

はじめに

本誌第31号・第32号・第34号でも記したように、元日本軍「慰安婦」のハルモニたちは、もう高齢である。今の内に話を聞いておかなければ聞き取りは不可能になると思い、僕は韓国挺身隊問題対策協議会（挺対協）に無理をお願いして、ハルモニたちの聞き取りを行っている。今回は、2013年3月9日に水原<sup>スウォン</sup>のご自宅で行った安点順<sup>アンジヨムスン</sup>さんからの聞き取りを掲載したい。聞き取りには、挺対協の尹美香<sup>ユンミヒャン</sup>代表・孫英美<sup>ソンヨンミ</sup>氏・白始真<sup>ベクシジン</sup>氏が同行してくださった。通訳は梁澄子<sup>ヤンチンジャ</sup>氏にお願いした。

便宜のために、安点順さんの略歴を記しておきたい。

- \*1928年12月2日（旧暦）ソウルの麻浦に生まれる（兄一人・妹一人）。
- \*1941年 ソウル麻浦ポクサゴルから中国の軍慰安所へ連行される。
- \*1945年 解放され、北京に移動。
- \*1946年 船で仁川に到着。家政婦や食堂の手伝いで生活。やがて飲み屋を始める。
- \*1950年 朝鮮戦争のため大邱に避難。
- \*1959年 大邱で飲み屋を営む。
- \*1992年 水原に転居。

\*1993年 兄が日本軍「慰安婦」被害者として申告。

この聞き取りで注目すべきことは、連行時の年齢が満14歳だったという安さんの証言が確実であれば、彼女の連行の時期と1941年の関東軍特種演習（関特演）による対ソ戦のための大動員の時期が重なっているということだろう。

周知のように、関特演では、関東軍司令部は約85万の動員予定兵力のために、2万人の朝鮮人「慰安婦」を集めようとしたといわれている（島田俊彦『関東軍』・中公新書・1965年・176ページ）。実際に移送された女性の数は島田氏によれば約1万人、原善四郎元参謀によれば8千人（千田夏光『従軍慰安婦』正篇・三一新書・1978年・104ページ）、関東軍参謀部第3課兵站班にいた村上貞夫氏によれば約3千人（金富子ほか編『「慰安婦」戦時性暴力の実態』I・緑風出版・2000年・336ページ）といわれている。

かりに8千人だったとして、これだけの女性を動員するためには、軍または総督府が選定した業者に集めさせるのは無理だという説がある。かつて秦郁彦氏は、つぎのようにのべていた。

「結果的には娼婦をふくめ八千人しか集まらなかったが、これだけの数を短期間に調達するのは在来方式では無理だったから、道知事→郡守→面

長（村長）のルートで割り当てを下へおろしたという。／実際に人選する面長と派出所の巡査は、農村社会では絶対に近い発言力を持っていたので「娘たちは一抹の不安を抱きながらも“面長や巡査が言うことであるから間違いないだろう”と働く覚悟を決めて」応募した。実状はまさに「半ば勧誘し、半ば強制」（金一勉『天皇の軍隊と朝鮮人慰安婦』）になったと思われる。（秦『昭和史の謎を追う』下巻・文藝春秋・1993年・335ページ）

これはかなり説得力のある説である。秦氏は、現在はこの説を撤回しているようだが、かりに3千人を集めるにしても、「在来方式」では無理であろう。そうすると、上記のような方法で集めた可能性は否定できない。安ハルモニの証言は、農村ではなく都市であるという点が違い、また、より強制性が強いが、このような行政機構を通じ、上から指示をおろしていく方式で集められたことを示すものといえないだろうか。これを確認することは、今後の課題である。

レコーダーからの起こしと翻訳は今回も梁澄子氏にお願いした。その意味で、本稿の作成もほとんど梁氏に負っており、成果があるとすれば、その功績は梁氏に帰すべきである。全体の構成は僕が行った。文責が吉見にあることはいうまでもない。（なお、本文中の〔 〕と脚注は梁氏または吉見が入れた補註である。）

末筆ながら、辛い思い出を語ってくださった安点順ハルモニに厚くお礼申し上げたい。また、仲介の労をとってくださった韓国挺身隊問題対策協議会の尹美香氏、通訳と記録の起こし・翻訳をしていただいた梁澄子氏に厚くお礼申し上げたい。

なお、本稿は2012年度中央大学特定課題研究「戦争と性」の研究成果の一部である。

安点順さんからの聞き取り：2013年3月9日  
水原の安さんの自宅にて

生い立ち

吉見 ハルモニの体験されたことを記録に残したいと思ってきました。どうかよろしく願いいたします。ハルモニは何年にお生まれになったんですか。

安点順 28年。

吉見 何年〔干支〕ですか。

安 辰年。だから86歳よ。

吉見 何月何日生まれですか。

安 12月2日。

尹美香 陰暦で？

安 うん。

吉見 きょうだいは何人ですか。

安 きょうだいは3人きょうだいなんだけど、みんな亡くなったわ。

梁澄子 あとの2人が亡くなったということですね。

安 うん。

吉見 お兄さんが一人……。



証言する安点順ハルモニ（2013年3月9日）、水原にて。

吉見：ある元日本軍「慰安婦」の回想（4）

安 兄と妹。

吉見 お父さんはどんな仕事をしていたんですか。

安 お父さんは早くに亡くなったの、私が9歳の時。

吉見 どんな仕事を？

安 あの頃は、大工。

吉見 普通の家を建てていたんですか。

安 うん。

吉見 お父さんの記憶はありますか。

安 よく分からないよ。

吉見 するとお母さんがみんな育てたんですか。

安 お母さんが3人きょうだいをみんな〔育てた〕。

吉見 お母さんはどんな仕事をなさっていたのですか。

安 お母さんは、とにかくできる商売を全部やったのよ。

吉見 例えばどんな？

安 行商もやったし、昔はとりたてて何もないじゃない、今ならいろいろあるけど、何でもかんでもやったのよ。

梁 畑仕事は？

安 畑仕事はない。

吉見 お生まれになったのはソウルの麻浦<sup>マポ</sup>でしたね。

安 うん、麻浦区龍江洞<sup>ヨンガンドン</sup>。

梁 それで畑はなかったんですね。

安 うん。

吉見 その辺りは都市化しているわけですね。

安 うん。

吉見 ハルモニは普通学校には通いましたか。

安 学校にちょっと通って、途中で通えなくなっ

た。

吉見 1年生くらい？

安 2、3年生くらいまでは通ったと思う。

梁 なぜ通えなくなったんですか。

安 お父さんも亡くなって、いないし、お母さん一人では大変だったんでしょう。自然と通えなくなったのよ。

梁 経済的に厳しくなった？

安 うん。また上にお兄さんもいたから、お兄さんを学校に通わせるために。

梁 お兄さんは学校に通って。

安 うん。

吉見 お兄さんは初等学校は卒業したんですか。

安 卒業して中学校まで通ったよ。

吉見 あ、そうですか。ソウル市内の？

安 ソウルで。

梁 お兄さんとは何歳違いですか。

安 4歳。

吉見 妹さんとは？

安 妹とは6歳違い。

吉見 お兄さんは中学校を卒業した後、どんな仕事につかれたんですか。

安 あの頃は就職もなかなか出来ないし、苦しい暮らしだったよ。伯父の家の方で援助してくれて、そこで仕事をしたり……。

梁 伯父さんの家ではどんな仕事をしていたんですか。

安 伯父さんの家？ 伯父さんは大きく商売をしていたの。

梁 どんな商売ですか？

安 物商客主<sup>1)</sup>って言って、船に荷物を載せて運んだり、そういう商売。

尹 物商客主というのは、大きな店を持って、すごく大きく商売をする。客主<sup>1)</sup>という、物流の中

1) 物商客主とは、商人を家に泊めたり、彼らの商品を仲介したりする仕事、または取引を仲介する仕事、またはそのような商売をする人のこと。

心のようなものです。ハルモニ、それは龍江洞にあったんですか、麻浦にあったんですか、物産客主が？

安 麻浦。あの全羅道木浦に降りて行く。本家で。

尹 麻浦というと、汝矣島の埠頭でそういう仕事をしていたんですか、海を行ったり来たりして？

安 うん。

梁 木浦に荷を運んでいた？

安 関係があって、行ったり来たりしていた。木浦でも大きく……。伯父の家は当時お金持ちだったのよ。当時、伯父の長男は銀行の支店長をしていたし、100円紙幣を見れば、そこに行けば見ることができた。

梁 伯父さん〔父の兄〕が物産客主だったということですね。

安 うん。

吉見 お兄さんはその会社に勤めて給料ももらっているわけですね？

安 そこで仕事をしたり、雑用をしたりしてたの。

梁 給料をもらって？

安 うん。本家が随分と援助してくれたのよ。

吉見 ハルモニは普通学校をやめた後はどうなさっていたんですか。

安 そのまま、家で、お母さんのもとで暮らしていたのよ。どんなふうに住んでいたのか、もう覚えてないよ。

吉見 何かお母さんの仕事を手伝ったりしていたのですか。

安 まだ幼かったから。9歳の時にお父さんが亡くなったのよ。9歳の子に何が分かる？ それから大きくなって、16歳〔数えか〕の時にあそこに連れて行かれたんだから。

軍「慰安婦」として連行される時のこと

吉見 辛いお話を伺わなければなりません。日本軍の慰安所に連れて行かれることになった時のことをお話してください。どういう状況で連れて行かれることになったのでしょうか。

安 麻浦区ポクサコル (복사골)<sup>2)</sup>に住んでいた時に、ある日、嫁にいていない娘たちに集まられて言うの、統長〔市の行政区域である統の長。統は洞の下で班の上〕が、それで出て行ったのよ。

前に大きな精米所があったのよ。その精米所に連れて行かれたの。そこには米を量る秤があったの。その秤に一人ずつ上がられて言うのよ。全く、今考えたら人間扱いじゃないよ。米を量る秤に載せたんだから。それで目盛りを見て、何キロだとか何とか言うのよ。当時、私は大きかったのよ。それからそのまま連れて行かれたのよ。

尹 お母さんがお店に出ている時、家事は誰がやってたんですか。

安 お母さんがやってたよ。

梁 伯父さんの家が金持ちだったから、お母さんも伯父さんの家の仕事をしていたんですか。

安 伯父さんにずいぶんと助けてもらったのよ。

尹 伯父さんが商売していた物品はどういうものだったんですか。

安 それは、まだ幼かったからよく分からないよ。海に出てみると、大きな荷物を降ろしたりしてたけど……。

吉見 統長が集まれと言った時は、何歳くらいの時ですか。

安 14歳。満で14歳の時。

梁 年齢を満で覚えているんですか。

安 〔無言でうなづく。〕

2) 麻浦区<sup>トフアドン</sup>桃花洞にあった村で、桃の花 (복사꽃) がたくさん咲いていたことが村の名の由来だった。

吉見 季節的にはどんな時期でしたか。暑い時期ですか、寒い時期ですか。

安 春か秋だと思う。寒くもないし、暑くもない。服も、厚着でもないし、薄着でもなかったから。

吉見 当時どんな服を着ていたか思い出せますか。

安 あの時はチマチョゴリだよ。当時、洋服はあったかなあ。主にチマチョゴリをよく着ていたよ。

吉見 髪は長くしていたんですか。

安 長かったよ。

吉見 結んで。

安 うん。編んでた。

吉見 その日の天気について、曇っていたとか、晴れていたとかという記憶はありませんか。

安 雨は降ってなかった。雨は降ってなくて、天気は良かった。

吉見 それは朝ですか、昼間ですか。

安 昼間だよ。そこから行く時にはトラックに乗って行って、それから列車にも乗って、いろんなものに乗って行ったんだよ。

梁 最初はトラックに乗ったんですか。

安 うん。

吉見 その日、統長が集まれと言った時に集まった女性たちは何歳くらいの人たちでしたか。

安 みんな私と同じくらいの子たち。そこからは3、4人が行ったんだよ。行く途中でトラックが一杯になって、どこか他のところから連れて来て載せて。

梁 ハルモニがそのトラックに乗る前に、すでにトラックに乗っている娘さんもいたんですか。

安 その時は、多分〔私たちが〕最初だったと思う。誰もいないところに私たちが最初に乗って、行きながら増えて行った。

吉見 秤に乗せられた時に体重は当時どれくらいだったか覚えていますか。

安 私？ その時50何キロかあった。それで連れて行っても大丈夫だと思ったんでしょう。年は幼いのに。

吉見 一緒に行った3、4人も、年齢はハルモニと同じくらいですか。

安 うん。

梁 では、その子たちも、幼いけど体重はハルモニと同じくらいあったということですか。

安 うん、その子たちも私と同じでみんな身体の大きい子たち。身体の大きい子だけ選んで。

梁 年上の子もいたのでは？

安 1歳上もいたし、1歳下の子もいたし。

梁 では、集められた子は全部で何人いたのか。

安 ポクサコルでは3、4人。他のところで乗せて行ったのよ。

尹 そうではなくて、最初に精米所に集められた時には何人くらい集められたんですか。

安 ああ、それは5、6人。

梁 じゃあ、痩せた子は2人くらいしかいなかったってことですか。

尹 選ばれた3、4人の中には元々知り合いの子もいたんですか。

安 うん。

吉見 検査が終わって「合格」となった時に誰がトラックに乗れて言ったんですか。

安 日本人たちが。

吉見 どんな？

安 軍人もいるし、警官もいたし。

梁 刀をさしていたんですか。

安 うん。

吉見 軍人を普段見たことはあったんですか。

安 見たことあったよ。道で見たことあったよ。

吉見 軍人だと分かるのは、刀をさしてるとか、

徽章があるとかですか。

安 肩に階級章をつけてるし、軍人の帽子は違うじゃない。つばのある帽子で。

吉見 トラックに乗せられた時にお母さんと話しをする機会はあったんですか。

安 とんでもない。お母さんは見えもしないし、家の中で泣いてるだけで。アイゴ、あの時のこと考えたらぞっとするよ。

梁 お母さんは出て来なかったんですか。知らなかったんですか。

安 知らないはずがないでしょう。連れて行かれるのは分かっているわよ。分かってたって、何も言えないじゃない。あの人たちが強制的に連れて行くんだから。それで連れて行かれるところを見たくないと言って、家の中に入って泣いて大変だった。

吉見 トラックに乗る時に、着るものとか、荷物を持って行くことはできたんですか。

安 そのまま行ったんだよ。

梁 荷造りしないでそのまま？

安 うん。うん。

吉見 その前に同じようなことがあったと聞いたことはありましたか。

安 聞いたことはなかったよ。

吉見 時期ですが、先ほど秋か春かとおっしゃいましたが、もう少しはっきりと分かりませんか。

安 その時は春だったと思う。木の葉が出て来ていたから、春だったと思う。それに、行ってからすぐ夏になったから。うん、春だったと思う。

吉見 向こうに着いたら暑くなったということですね。

安 うん

梁 連れて行かれたところがいつも暑いところだったわけではなく？

安 違うよ、中国だもの。

吉見 体重を量ったのは銃長ですか、軍人ですか。

安 一緒にやったんだよ。軍人も、みんな一緒に。

梁 誰と誰が一緒に？

安 警察と。

梁 軍人と警察と、その他には誰がいたんですか。

安 それ以外に誰がいるの、町の人だけだよ。

梁 町の人が見ているんですか。

安 うん。

梁 では、その見ている人の中にお母さんもいたわけですね。

安 お母さんは見てたけど途中でもう……〔家に入ってしまった〕。

吉見 当時は国民服と言うのがあって軍人と同じような服を着た人もいたのですが……。

安 脚にゲートルをぐるぐる巻いてるし、肩に階級章も付けてるし。

吉見 帽子も？

安 うん。

尹 階級章がどんなだったか覚えていますか。

安 二本線もいるし、星がついてるのもいるし。

吉見 刀もさしてたんですか。

安 刀をさしてたのは警察じゃないかな？ あの頃は警察って言えば本当に怖かったよ。

梁 階級章をつけた軍人たちは刀はさしていないようでしたか？

安 腰に小さな刀をさしてたような気がするけど。

吉見 銃は持っていませんでしたか。

安 うん〔持っていなかった〕。

吉見 トラックに乗れと言ったのは警察ですか、軍人ですか。

安 その人たちだよ。みんな一緒に。

移送について

吉見 トラックに乗って、途中で女性たちを乗せながら、そのトラックはどこまで行ったんですか。

安 そこがどこかは分からないし、ずっと行ったら、みんな降りろと言われて、今度は列車に乗れって言うのよ。それで列車に乗ったのよ。

吉見 その日のうちに駅に着いて列車に乗ったんですか。

安 その日のうちに〔トラックから〕降りた。

梁 では、昼間に精米所からトラックに乗って、その日の夜に駅で降りたんですか。

安 うん。行くのに昼も夜もなかったよ。

吉見 結局、そのトラックには何人くらい乗って駅で降りたんですか。

安 だから、多分12人乗ったと思う。

吉見 その12人が一緒に汽車に乗ったんですか。

安 一緒に列車に乗ったよ。それで中国でバラバラになったの。

吉見 その列車に乗る時に誰と一緒に行ったんですか。

安 引っぱられて行ってずっと泣いてるから、どこがどこかも、わけが分からないし、混乱しちゃって。

梁 でも、誰かが連れて行ったんじゃないですか。

安 そりゃ、軍人たちが一緒に行ったんだよ。

梁 軍人が何人くらいいたんですか。

安 軍人が前にも乗ってるし、後にも3、4人乗ってるし。

梁 それはトラックの話ですか？ 運転席にも軍人がいて、後の娘たちの乗っているところにも3、4人いたという意味ですか？

安 うん。

梁 その人たちが列車にも一緒に乗ったんです

か。

安 うん。私たちにずっとくっついてたのよ。

梁 中国までずっと？

安 うん。

吉見 体重を量った時から同じ軍人がずっと？

安 そうだよ、そうだよ。

中国に着いて

吉見 列車に乗って中国に着いたのは翌日くらいですか。

安 何日かかかったよ。そこは行って見たら、人は見えないし、軍人だけうじゃうじゃしてて、家もないし、広い原っぱだよ。シベリアの原っぱみたいに、本当に何も無い、砂しかない陰しいところだよ。

吉見 木も何も無いんですか。

安 木なんか無いし、ただ原っぱだよ。

梁 砂の原っぱ。

安 うん。それからまた乗れって言われたの、トラックに。

梁 どこで？ そのただっ広い原っぱで？

安 そこに何日かいた後、乗れって言われたの。それで〔トラックに〕乗ってどこかに行ったんだけど、そこは空き家もいっぱいあって、あれ、防空壕〔日本語で「ボウクゴウ」と発音〕、なんて言うんだっけ、地下を掘って、うん、穴。そういうものもあるし、飛行機が飛んで来て爆撃するんだけど、そのボウクウ……、その地下に入って、そんなふうにしてたんだよ。

梁 その平原でまたトラックに乗るまで何日くらいでしたか。ですから、その砂漠のようなところには何日くらいいたんですか。

安 何日かいたと思う。何日かそこで寝たよ。テントみたいなのを張って、そこで寝ろって言われてそこで寝て、何しろ何日かいて、他の場所に

移ったの。

吉見 汽車に何日か乗って、汽車を降りて、それからトラックに乗ったということですね。

安 うん、うん。

吉見 トラックに乗って連れて行かれたところが、何もないシベリアの平原のようなところだったということでもいいんですか。

安 うん、軍人たちだけがいる。

吉見 そこに数日いて、さらに……。

安 そこに何日かいて、また乗れって言われて、どこかに行ったら、そこには空き家もあって、防空壕もあった。それから飛行機が飛んで来て、爆撃されて、大騒ぎだったよ、アイゴ。

吉見 それは行ったときに爆撃があったということですか。行ってすぐに、あるいはその前後に。

安 うん、行った日。

梁 行く途中にもあったんですか。

安 途中はよく分からない。到着するとすぐに降りると言われて降りたら、テントみたいなのをあっちこっちに張ってあって、空き家もあったよ。それから飛行機から爆弾が、とにかく引張られて行って隠れて……。

梁 じゃあ、いきなり防空壕に入ったんですか。

安 うん。

梁 家に入る前にまっすぐ？

安 うん。

吉見 そこからさらにまた移動するんですか。

安 そこには長くいたよ。そこには病院もあったし。私もその病院で暮らしているみたいに〔よく通った〕。お尻に赤い薬をつけて、ああ、嫌だ。思い出したらぞっとするよ。

吉見 入れられたところはどんな建物だったんですか。テントですか。あるいはちゃんとした建物だったんですか。

安 空き家。空き家にまず入ったの。そこに行っ

てから私がずっと泣いてるから、中でもちょっと年上の女がいて……。そこには先に来ていた女たちがいたんだよ。それで、私にたばこを渡して、これを吸ってみろって言うのよ。そのタバコの中にアヘンが。あんまり泣くからアヘンを吸わせたんだよ。そのタバコを吸ったら何も分からなくなるんだよ。気持ちがいいんだよ、それが。

#### 最初の暴行

梁 そこに行く前、砂漠のようなところでテントで寝ていた時にも軍人の相手をさせられたんですか。

安 〔無言で頷く。〕

梁 では、そこで初めて強かんされたんですか。

安 〔無言で頷く。〕

梁 砂漠のテントで？

安 〔無言で頷く。〕

吉見 そのテントには同じ村の3、4人の女の子と一緒にいたんですか。

安 〔その3、4人は〕どこに行ったか分からない。

梁 では、テントで寝たときには、誰と一緒にいたんですか。

安 見たことのない女たちがいたよ。

梁 見たことのない女たちが何人くらいテントに？

安 5、6人いたよ。

梁 その5、6人が空き家のあるところに一緒に？

安 うん、一緒に。

吉見 テントで最初にハルモニに暴行したのは、どんな軍人だったか覚えていますか。

安 アイゴ、分からないよ。分からないし、何がなんだか分からなかったし、あいつらは昼も夜もなしで来て、アイゴ……〔首を振る〕。



尹 将校でしたか。

安 将校は空き家の方。あっちに行ってから〔将校に〕やられた。あまりにも痛くて、耐えられないのに、将校一人が長い刀を下げたて入って来て、怒鳴りつけるのよ。私は身体の具合が悪いと言ったら怒って私を殺すって、刀を抜いて。あのままあそこにいたら殺されてたかもしれないよ。刀を抜いて振り回して殺すって悪態をついて、あの頃は日本語も分からないけど、悪態だって分かるんだよ。暴れてるところをなんとか抜け出して、逃げたけど、行くところはないじゃない。だからその空き家の焚き口、穴みたいのところに行って隠れてたんだよ。それでそこで一晚寝て、夜が明けてから出て来たんだよ。アイゴ、あのときはそのままあそこにいたら死んでたよ。私が逃げなかったら、刀を抜いて振り回して大騒ぎをしたんだから。アイゴー。

#### 軍慰安所の様相

吉見 最終的にその空き家に入れられるわけですが、5、6人のテントに入れられていた女性もみんなその空き家に入れられていたんですか。

安 うん、一緒にいたよ。空き家は部屋がたくさんあったから。

梁 ジャあ、大きな家ですね。

安 うん。

吉見 そこは「慰安所」とか「何々荘」といった名前がついていましたか。

安 名前もないよ。ただ空き家で、そういう空き家がたくさんあったよ。その人たち〔そこに住んでいた人たち〕も戦争のせいでどこかに避難したのか、空き家がたくさんあったよ。病院も軍人たちが全部つくっておいて、いつも病院に通ってばかりいたよ。

吉見 すると、その周りには中国の民間人は全然いなかったわけですね。

安 いないよ。中国人は見なかったよ。でも、そこからずっと離れたところに中国人がいたんだよ。

梁 それはどうやって分かったんですか。

安 アヘンを私にくれた女がそう言ってたんだよ。中国人がいる、そこでアヘンを買って来たって。

梁 ジャあ、ハルモニは直接中国人を見たことはないんですか。

安 私は見たことないよ。私は見たことない。

吉見 日本軍の部隊は空き家の近くにいるんですか。見える場所に。軍人たちの宿舎というか。

梁 ハルモニ、軍人たちが普段どこで寝ているか分かりましたか。

安 テントで寝たり、空き家、そんなところも使ってたし。

梁 ハルモニたちがいる空き家から近い場所にいたんですか。

安 その村がちょっと大きかったんだよ。大きくて家もたくさんあったんだよ。それから、自分たちで建てたのか、新しく建てた家もいくつかあったよ。事務所みたいに建てたところもあるし。

梁 では、普段は軍人同士で集まっているんですか？ 部隊があるんですか？

安 部隊が、そう、大きく部隊があるんだよ。軍人もたくさんいるし。

吉見 その部隊はなんていう部隊か、記憶ありますか。

安 分からないよ。そんなことを知ってたらよかったですけど、分からないよ。

吉見 通って来た軍人で名前を覚えている人はいますか。

安 アイゴ、忘れちゃったよ。どれだけ昔のこと

だと思ってるの。分からないよ。

吉見 空き家に入れられたわけですけども、そこには運営する民間人がいたのでしょうか。業者が。

安 いなかった。

梁 誰も？

安 うん。いなかった。軍人たちの世界だよ。軍人が全部……。

尹 じゃあ、食事の支度は誰が？

安 それは部隊でおにぎりとか作ってくれて食べたりしたんだよ。ところがあの村は水がなくてねえ、飲み水も部隊から持って来て飲んだんだよ、水がないのよ。

吉見 部隊が持って来る食事というのは？

安 米のご飯を持って来ることもあるし、麦飯を持って来ることもあるし。

梁 それをおにぎりにして？

安 そうだよ。

吉見 日本食だったのでしょうか。中国料理じゃなくて。

安 分からないよ。ただ持って来るものを食べるんだから。

梁 おかずはないんですか。おにぎりだけ？

安 おかず？ おかずだって？ アイゴー（笑）

尹 何かあったんじゃないですか？

安 ないよ。おかずなんか。

尹 おにぎりだけだったんですか。

安 そうだよ。たくわん何切れかつける程度で。

尹 お腹がすいたでしょうねえ。

安 アイゴー。

吉見 家の周りに女の人は全然いなかったんですか。看護婦さんとか。

安 だから病院にしょっちゅう行ってたんだってば。病院に行けば看護婦もいたよ。

梁 看護婦以外の女性は全然見なかった？

安 うん、見なかった。

吉見 服なんかはどうしてたんでしょうか。着るものは誰がくれたんですか。

安 服は軍服を着たり、服をくれたのかなあ、洋服みたいな、あれ、なんだっけ、夏に着る袖の短い……。

尹 ワンピース？

安 うん、ワンピース。そんなのを誰が持ってきたのか、そんなのを着てた。

梁 そこは寒いこともありましたか。

安 寒いこともあったさ。

梁 寒い時には何を着るんですか。ワンピースは暑い時ですよ。

安 軍服着る。

梁 じゃあ、夏にはワンピースを着て、寒くなると軍服を着た？

安 うん。

吉見 冬はものすごく寒かったんじゃないですか。

安 寒いなんてもんじゃないよ。話にならないくらい寒かったよ。家はあっても火を入れる場所がなかったんだよ。

梁 家の中がそれですごく寒いんですね。外の気温は韓国と比べてどうですか。

安 あそこの方がもっと寒いよ。

梁 そんな寒いところで火も入れてくれなかったら生きていけないじゃないですか。

安〔無言で頷く。〕でも、今ジーンと考えてると、あそこのことをよく思い出すのよ。どうやってあそこで過ごすことができたんだろうって。

尹 火を全然くべてくれなかったっていうのは？

安 木も何もないじゃない。

尹 それじゃあ、どうやって暮らすんですか。火もくべてくれない、水もない……。

吉見 そうするとお風呂なんかは全然ないんで

しょうか。

安 そんなのどこにあるの。水がなきゃ。水を見ることもできないのに、どうやって（笑）。

吉見 身体の汚れはどうしてたんでしょう？

安 アイゴ、全く話にならない、人間の暮らしじゃないよ。時々病院に行った時に洗ったりする。

吉見 軍人たちは毎日何人くらいやって来るんですか。

安 話にならないよ。何人なんて言えないよ。

尹 大体、大体どれくらいか。

安 アイゴ！ 分からないよ！

尹 大丈夫よ、私たちには言っても。

安 ふー〔ため息〕（涙）

尹 軍人たちは昼間も来たの？

安 昼も、夜もないよ。

尹 それでハルモニはよく病気になったのね。洗うこともできないし。それでよく病院に行ったんですね。病院で赤い薬をつけて。

#### アヘンの吸飲

吉見 さっきタバコにアヘンを入れられて吸われたということでしたが、それはずっと吸ってると大変なことになるんじゃないかと思うんですが、どうだったのでしょうか。

安 それがねえ、夕方になると、その女が私を呼ぶのよ。呼んで、これ吸えってくれたのよ。なのにどうやって私がそれをやめたのか分からない。

1ヵ月くらいはそのタバコを吸っていたと思うのよ。後でその女がいなくなったのか、くれなくなったのか、とにかくそれをなんとかやめたのよ。あれは一度覚えるとなかなか切れないって言うけど、私は切ったのよ。

梁 切るしかなくなって切った？

安 そうだよ。あれば……。

梁 切る時は相当に苦しかったでしょう。

安 大変だったよ。その時間になったら冷や汗が出て、ぶるぶる震えるし、痛みもあったよ。だからどうして切ったのか、それを思うと、あのとき切ることができて良かったと思うよ。

吉見 病院に行かずに自分で……。

安 行かなかった。なんとかやりぬいたんだと思うよ。あれも、買えなきゃ吸えないんだから。お金があるわけじゃなし。

梁 その女はお金を持っていたんですか。

安 分からないよ。でも、その女は何か持っていたから買ってたんじゃないのかな？

梁 ハルモニたちは外出はできたんですか。

安 外出なんかできないよ。遠くになんかいけないよ。

梁 でも、その女は遠くでアヘンを買ったということですよ。

安 どうやって連絡をつけたのか、その女は持ってたんだよ。私たちが行く前から、その女はそこにいたのよ。

吉見 外出はできなかったということですが、家の周りを散歩するとか、ちょっと出ることは可能だったんですか。

安 それくらいは出来るよ。

吉見 遠くに行けないというのは、軍人が見張っているわけですか。

安 〔頷きながら〕うん、うん、出られない。

梁 禁止されていたんですか。

安 分からない。禁止されていたんだかどうか、とにかく出たところで、その家の周りを行ったり来たりする程度。

#### 性病感染について

吉見 街に買い物に行くということは出来ないわけですね。

安 どこに市場があるのかも知らないよ。

吉見 軍人はお金は全然持って来なかったんですか。

安 [首を横に振る.]

尹 軍人が来る時にお金を持って来なかったの  
かって。

安 持って来ないよ。

吉見 病院では性病検査はあったんでしょうか。

安 1週間に1回ずつ、行って検査した。

吉見 性病をうつされたことはありませんでした  
か。

安 うん。

梁 性病にかかるとどんな治療を受けましたか。

安 毎回赤チン塗るだけ。だからいつもいつもス  
カートのお尻のあたりに赤いのが染みついていた  
のよ。

尹 注射を打たれたことはないんですか。

安 ううん [と首を横に振った後] あ、分からな  
い。注射を打ったのか、打たなかったのか、思い  
出せない。

吉見 梅毒をうつされたことはありませんか。

安 梅毒なんだか何だか、当時は病気の名前も分  
からないよ。病気の人間は病気なんだと思うだ  
けで、どこがどう悪いんだか、私たちに分かるわ  
けがないじゃない。

尹 病院で病名は言わなかった？

安 そんなこと言うわけがないじゃない。

尹 性病の症状はどういうものでしたか。

安 切れて、できものが出来て……。そこで治療  
を受けて来て、何か変な感じがして触ってみた  
ら、糸みたいなのがついてたよ、[できもの] 全  
部に、切ってから糸で縫ったのか何か、とにかく  
糸がついてたの。後からそれ全部なくなったよ。

尹 糸が後でなくなったんですか。

安 うん、できものもなくなったし。

尹 どういうことかと言うと、夫から聞いた話な  
んですが、軍隊で水ぶくれなんかできると、そ  
こに糸をさしておくらしいです。そうすると水泡  
の水が糸をつたって落ちて来て治るって話を  
聞いたことがあります。つまり、ハルモニの臀部  
にできた水ぶくれのようなできもの全部に一つ  
一つ糸をぶら下げたんでしょう。それで水が抜けて  
できものがなくなる時に糸もなくなったというこ  
とでしょう。今でも軍隊でやっている方法です。  
痛くもないし、水ぶくれなんかはそれで治るらし  
いです。

吉見 性病のせいで糸状の何かが出て来るとい  
うのではないんですか。

尹 そうじゃなくて。

梁 縫い物をするときの糸と同じようなものでし  
たか。

安 それよりもすごく細くの。

梁 すごく細い。でも、間違いなく糸なんです  
か。

安 うん、糸だと思う。すごく細くて、なんてい  
うのかなあ、絹糸なんだか、何だか分からないけ  
ど、すごく強くて、細い糸だった。

梁 それは自分でとることもできるんですか。

安 痛くてとれないよ。

梁 じゃあ、次に病院に行ったときに医者がつ  
てくれたんですか。

安 いや、自然になくなったの。

梁 できもの全部にひとつひとつ付いていたん  
ですか、たくさん？

安 うん。

吉見 606号の注射は……。

安 うん、606号。

梁 聞いたことがありますか？

安 うん。それ打たれたの思い出した。それを打  
たれると鼻からすごい臭いがするのよ。思い出し

た。  
尹 鼻からどんな臭いがするんですか。  
安 すごくキツイ黄色い臭い。  
尹 黄色い臭いってどんな臭いですか。  
安 分からない。とにかくキツイ臭い。  
孫英美 腋臭みたいな臭いなんじゃない？  
安 うん、そんな臭い。  
吉見 606号はすごく痛いと聞きましたが。  
安 痛いよ。痛いなんでもんじゃないよ。今思い出したよ、それ何回か打たれたことあるよ。思い出した。  
吉見 それはどこに打ったんですか。脚ですか。  
安 血管 [と言いながら腕を指す]。  
梁 腕ですか？  
安 うん。血管。血管に打った。  
吉見 その性病は、そこにいるときに完全に治ったんでしょうか。  
安 治った。できものも全部なくなって、そこで治った。

#### 日本の敗戦と解放

梁 そこにどれくらいいらっしたんですか。  
安 [朝鮮が] 解放されるまでそこにいたんだから。  
尹 その時、年はいくつでしたか。  
安 解放されたとき、17歳かな？ 17歳の時に [朝鮮が] 解放されたと思う。  
尹 満で？  
安 違うよ。  
尹 行ったときの年齢は満年齢？  
安 分からないよ。満だか何だか、分からない。  
尹 連れて行かれた時の14歳は満年齢だとさっき……。  
安 分からないよ、ただ14歳。とにかく14歳。  
吉見 中国ではさらに他の場所にも移動したんで

すか。  
安 行かなかった。  
梁 そこにずっといたんですか。  
安 うん、行かなかった。  
梁 それでは砂漠のような平原と、空き家のあったその場所の2カ所で軍人の相手をさせられたんですね。  
安 うん、2カ所。そこにおいて解放になって [戦争が終わって] 寝て起きたら、軍人が一人もいなくなっていたのよ。それから中国人が入って来たの。中国人が入って来て、[朝鮮が] 解放されたことが分かった。それまでは解放された [戦争が終わった] ことも分からないし、何も分からなかった。そこで中国人一人が私たちを連れて出たの。そこから昼も、夜もとにかく歩いたよ。車も何もないんだから、歩いて、歩いて、何日かかかったと思うよ。北京というところ、中国の北京。そこに到着したんだけど、アイゴー、お腹も空いてるし、人間らしくもないよ。その中国人が食堂に連れて行ってご飯を食べさせてくれたよ。そこで光復軍。韓国人の光復軍に会ったの。  
梁 偶然？  
安 うん。  
梁 その食堂で？  
安 うん、食事をしに来て、偶然会って、私たちがその話をしたのよ。かれこれこうして私たちがここまで来たって。そしたらその光復軍が家に行こうって。そこに住んでいたのよ。他の女たちはまた他の場所に行ったのかどうか、行って見たら、私一人だった。  
梁 食堂には他の女性もいたんですか。  
安 うん。一緒に出てきた女たち。  
梁 何人くらいいたんですか。  
安 あの時3、4人、じゃない、5、6人いたよ。ところがその光復軍が家に行こうと言って、そこ

に行ったら、私一人なのよ。そこであの女たちはどこに行ったのかって私が聞いたら、あの中国人がどこかに連れて行ったって言うのよ。どこに連れて行ったんだか、どこかに嫁がせたんだか、分からないよ。だって私に嫁に行けって言うのよ、中国人が。

梁 中国人が？

安 うん。

梁 光復軍ではなくて？

安 光復軍に会う前の話。

梁 連れて来てくれた中国人が？

安 うん。

梁 その人はどういう人だったのでしょうか。

安 分からないよ。でも、何か魂胆があったから〔私たちを〕連れて出て来たんでしょう。自分のお金を使って連れて来るんだから。とにかく私は光復軍に会って、そこに何日かいたよ。何日かいたら、光復軍がこう言ったのよ。明日4時に船が出るって。そこが仁川？ いや、そこがどこだっけ？ 以北の……天津<sup>3)</sup>。天津で船に乗ったの。

梁 北京から天津にはどうやって行ったんですか。

安 光復軍が連れて行ったのよ。

梁 歩いて？

安 まさか。車で行ったんだよ。当時は、何て言うんだろう、ジープって言うのかな。うん、ジープ。それに乗って、その家族と一緒に。

梁 光復軍の家族と？

安 うん。一緒に乗って行って船に乗ったんだけど、船がすごく大きな船でねえ、あの時は解放さ

れた時だから韓国人もいただろうし、日本人も……。日本人は殴り殺された人もすごくたくさんいたよ、あそこで。中国人に殴り殺され、韓国人に殴り殺された人、たくさんいたよ。

梁 中国で？

安 うん。だからあの人たち〔日本人〕は隠れて船に乗って、あの時三千何百人が乗ったって言ってたよ、その船に。ものすごく大きいよ、その船が。そこから乗って仁川に到着したら、1週間以上経ったって言ってたよ。天津から仁川まで1週間以上かかったって。着いても、すぐには降ろしてくれなかった。仁川で一晩寝て、それから降りたんだけど、米軍がズラーと並んでるのよ。銃みたいなのを持って。

それから一人ひとり、降りる人たちにDDTをかけるのよ。病気がうつるかと思ってそうしたんでしょう。みんな真っ白になっちゃって。それから韓国人だったか誰だったか、大人には1000ウォンずつ、子どもには700ウォンずつくれたのよ。

尹 船から降りた時に……。

安 うん。降りた人たちに交通費にしろって。

#### 解放直後の状況

吉見 日本の軍人がいなくなった前後に爆撃はありましたか。

安 あったよ。すごい爆撃だったよ。防空壕の天井がグァングァン揺れて、まあすごい爆撃だったよ。

吉見 最初に爆撃があったとおっしゃっていましたが、それはこの時のことではないですか。

安 行った時にもちょっと爆撃はあったよ。でも、あれほどすごい爆撃ではなかった。

梁 では、そこにいる間ずっと爆撃があったんですか。

安 違うよ。2日に1回とか、ある時は毎日のよ

3) 安さんは清津(청진)発音しているが、清津は北朝鮮の日本海側にある港であり、帰国のために北京→清津→仁川と移動するのは極めて不自然であるので、船に乗ったのは天津(천진)と解釈した。

うにあって、またある時は何日か間があいたりしたけど。

尹 それは銃声とかではなくて、本当に爆撃の音？

安 そうだよ。飛行機から落ちて来るのよ。

吉見 解放された時にソ連軍とかロシア人を見ましたか。

安 見てない。

吉見 日本軍がいなくなって中国人が入って来ますよね。その中国人たちはハルモニたちに友好的でしたか。

安 ありがたかったよ。私たちを連れて出てくれたんだから。よくしてくれたよ。

尹 周りにいた中国人がみんな？

安 他の人は知らないよ。その中国人だけが、私たちがどういう人間か分かっていたのよ。

梁 たくさんの中国人に会ったんですか。解放された後は？

安 北京に出て来たから。北京は大きな町でしょ？ 中国で。

梁 北京に着く前には、その連れて来た中国人以外には会わなかった？

安 うん、いなかった。私たちがいたそこからしばらく歩いて来たら中国人が見え始めたよ。

吉見 ハルモニがいた所から北京まで歩いて行ったということですが、どれくらい時間がかかりましたか。

安 多分、3、4日はかかったと思う。本当に遠かったよ。もう足が棒のようになって。今じゃあんなに歩けないよ。

梁 途中、食事はどうしたんですか。

安 その中国人が食べさせてくれた。

吉見 その中国人は何歳くらいの人でしたか。

安 年は40歳くらいじゃないかなあ。

吉見 いい男でしたか。

安（笑）中国人はみんな同じような顔よ。

吉見 結婚しようと言われて真剣に考えましたか。

梁 その中国人が結婚しようと言ったのではなくて、お嫁に行かせようとしたんですね。

安 嫁に行けって言ったのよ。

吉見 どこかに世話しようとしたんですね。

#### 帰国後の生活

安 それから船から降りて家に行ったらお母さんはすっかり老け込んでいて、私に生きて帰ってくれとお餅をついて、麻浦江<sup>マボガン</sup>〔麻浦の前を流れる漢江のこと〕に、夜中に、12時過ぎてから持って行って、麻浦江の前でお祈りしている最中にトッケビ〔お化け〕に会ったんですって。そのトッケビと夜通しケンカしたんだって。うちのお母さんは身体も大きいし、肩幅も大きくて、ある時は麻浦で薪を売ってる人たちと腕相撲をして薪一束を手に入れたこともあったくらいなのよ。寡婦になった人たちは性格もキツくなるし。とにかく、トッケビと夜通し闘って傷だらけになって、夜が明けて見たら箒に真っ赤な血がついていたんだって。この婆さんがトッケビに勝ったのよ。顔から何から傷だらけになって家に帰って来て、何日も寝込んだんだって。その話を聞いたよ。

吉見 お母さんに会った時に、お母さんはどんな仕事をしていたんですか。

安 あの時は兄がいたから兄が稼いでたから。

梁 帰ったら妹さんもいましたか。

安 妹もいたよ。

吉見 お兄さんは戦争にとられたりはしなかったんですか。

安 行って来たよ。

梁 行って来たんですか。徴兵ですか、徴用ですか。

安 軍人。

吉見 どこに？

安 分からないよ、どこに行って来たのか。軍人に行ってきた。

尹 行かないために逃げ回ったって言ってましたよね？

安 それは、<sup>ユキオ</sup>6.25〔朝鮮戦争〕の時かな。

尹 だから、軍人に行ってきたっていうのは6.25の時、解放後ですよ？

安 違うよ。

尹 日帝時代？ 日帝時代には軍人ととられないために逃げ回ったって言ってたじゃないですか。

安 じゃなくて、6.25の時、強制的に連れて行ったりしたのよ、その時。

尹 その時に連れて行かれないために逃げ回ったって話ですか？

安 そう。

梁 結局、日本軍の軍人になったんですか。

安 うん。

梁 6.25の時ではなくて？

安 6.25の時じゃなくて。

梁 6.25の時には逃げたんですか。

安 6.25の時には、うちは<sup>テグ</sup>大邱に避難したのよ。大邱に避難したんだけど、結局は寝ている時に捕まって行ったよ。それで日本の富士山の麓に行って訓練を受けて。

梁 それは日帝の時？

安 違うよ。6.25の時！

梁 6.25の時に富士山に行ったんですか。

安 6.25の時、結構たくさんの方があそこ、富士山に行って訓練受けて来たのよ。

孫 6.25の時にどうして日本に連れて行かれたんだろう？

安 日本に連れて行かれたんじゃなくて、訓練を受けに行ったんだってば。韓国に訓練受ける場所

もないじゃない。あの時寝ていて捕まって行った後、あっちこっち韓国の部隊を探して歩いたのよ。それでも見つからなかった。あの時、第7師団の兵站部隊と私たちは一緒にいたのよ。6.25の時、戦争中に大邱で、それで……。

吉見 解放されて故郷に着いた時にお母さんは何て言いましたか。

安 生きて帰って来たと言って、そりゃあすごく喜んだよ。

尹 その時、もうお兄さんは帰って来ていたんですか。

安 うん、いた。

梁 じゃあ、お兄さんが先に帰って来ていたんですね。

安 うん。

梁 軍隊に行ってから。

安 だから、あの時に兄が軍隊に……。行ったのかなあ、とにかく家に帰ったら兄がいたのよ。うん、軍隊に行ってから先に家に帰ってたんだよ。

梁 家に帰ったらお兄さんが自分も軍隊に行ってきたと言ったんですか。

安 17歳で行ったって言ったか、18歳だったって言ったか、〔軍隊に〕行って来たと言ってたよ。

尹 ハルモニとの年齢差が3歳、4歳？

安 3歳。

尹 じゃあ、ハルモニが連れて行かれてから間もなくということですね。

梁 お兄さんはどこに行って来たと言っていましたか。

安 分からない。

吉見 妹さんはどうしていましたか。

安 妹は、あの頃釜山に住んでいたのよ。

梁 ハルモニが家に帰って来た時に？

安 いいや、その時は家にいて、その後で釜山に嫁に行ったのよ。



吉見：ある元日本軍「慰安婦」の回想（4）

梁 解放後に嫁いだんですね？

安 そう。もう死んだよ。

帰国後の生計：店員、家政婦、飲み屋の営業

吉見 ソウルのお宅に帰ってその後どのように暮らして来たんですか。何か仕事をされたんですか。

安 アイゴ、言葉にできないよ。家政婦をしたり、商売をしてみたり、とても全部は話しきれないよ。

吉見 家政婦をしていた時にはソウルのお母さんの家から通っていたんですか。

安 そうよ。お母さんの面倒はお兄さんが見ていたし、私はとても家にはいられないよ。年も20歳になって、だから家を出てあっちこっち行って暮らしたよ。

尹 最初にした仕事は何でしたか。

安 最初は、他人の店の雑用したり、家政婦したり。

梁 その頃はどこで寝泊まりしていたのですか。

安 家で。

梁 最初の頃は家から通っていたのですね。

尹 じゃあ、家を出たのは何歳頃ですか。

安 あれは、19歳か、それくらい。

吉見 家を出た後はどこで暮らしていたのですか。

安 その後はソウル市内で。

尹 食堂みたいところで働いていたのですか。

安 うん。

尹 カンウォンド 江原道にはいつ行ったんですか。

安 江原道？

尹 江原道にもいたって言ってましたよね？

安 いいや。

尹 ずっとソウルにいたんですか。

安 うん。

梁 6.25の時に大邱に。

安 うん。

吉見 家政婦の仕事というのは、どこかの家で掃除をしたり、食事を作ったりという仕事ですか。

安 うん。

吉見 それでどれくらい給料をもらいましたか。

安 アイゴ、いくらにもならないよ。

尹 それでも、いくらかはくれたでしょう。

安 当時のお金のこと言って分かる？

吉見 食堂の手伝いと家政婦とどちらが楽だったとか、どちらがもっと給料が良かったとか、ありますか。

安 そうやって稼いで、自分で商売したのよ。22歳くらいの頃かな。

梁 どんな商売？

安 マッコリ商売。それが一番簡単じゃない。

梁 それはマッコリを飲ませる飲み屋を構えたんですか。

安 うん。

梁 マッコリを作って売ったのではなく？

安 ちがう。

梁 マッコリを飲ませる店をやったんですか。

安 うん。

尹 ソウルで？

安 うん。

尹 麻浦の方で？

安 うん。

尹 吉元玉ハルモニはマッコリをつくって密造酒で売ったって言ってたけど。

安 つくって売ってたって？

尹 はい、吉元玉が密造酒をつくって、安点順ハルモニの店に売ってたら面白かったのに（笑）。

吉見 マッコリを売る店はソウルで？

安 うん。

尹 麻浦だったそうです。

孫 今、シムト「ウリチプ」は麻浦にあるんですよ。「ウリチプ」に来て暮らしませんか？

安 (大笑)。麻浦も随分変わったでしょう？ どこがどこだか分からないよ。今でも船が通ってるの？

結婚拒否とトラウマについて

梁 同じ村から連れて行かれた友だちに、麻浦に戻ってから会ったことは？

安 一人も見えたことないよ。

尹 光復軍は尹氏だったんでしょ？

安 うん。

尹 尹氏はいいのよ。

梁 結婚はしなかったんですか。

安 しなかった。男なんか、アイゴー。

梁 お母さんが嫁に行けと言いませんでしたか。

安 言ったよ。お見合いまでしたよ。それで麻浦江の向こうの、当時、カンゴインジョ (광어인조) という名の生地 (布) 屋が出たのよ。その家の息子なんだけど、仲介が入って見合いまでしたよ。それから何日も家の前に来て塀越しに覗き見たり口笛を吹いたりしてるんだけど、どうしても会いたくないのよ。会いたくないの。それで私が断ったのよ。

吉見 どうして嫌だったんですか。

安 嫁に行くのが嫌なのよ。

梁 その人が嫌なのではなくて、結婚するのが嫌だったんですか。

安 うん。嫁に行くのが嫌なの。ただ嫌なの。男も嫌だし、あの頃はさんざんな目に遭ってたから……。

吉見 今でもそうですか。

安 今も一人で暮らすのがいいよ。私はずっと一人だから一人がいいよ。

吉見 当時のことを夢に見たりすることがありま

すか。

安 夢を見ることもあるよ。今でも一番思い出すのは、私を殺すと言って刀を抜いたあの将校のこと。本当に危なかった。あのことを思い出すと、今でもぞっとするよ。

尹 本当に火を入れてくれなかったってことですよ。その時、焚き口に隠れたって言うんだから。火をつけてたら焚き口には逃げられないでしょう。

梁 でも、夏だったかもしれないじゃない。夏なら火は入れないから。

尹 確かにそうね。

安 冬だって火はつけないよ。木がないんだから。

孫 子どもだから何とか耐え抜いたんでしょ。若いから。

安 耐えたよ。お腹が空いても我慢したし。

再び軍慰安所の様相について

梁 空き家の周辺くらいは出られたと言っていました。その空き家の外に軍人がいたんですか。

安 歩哨に立ってる人もいたし、行ったり来たりしてる人もいるし。とにかく平原なんだけど、そこは部隊の中にいるのと同じだから。

梁 その歩哨というのは、ハルモニがいる空き家の歩哨ですか。

安 いいや、違う。

梁 部隊の歩哨？

安 うん、部隊の外に立っている。

梁 じゃあ、ハルモニたちのいた家は部隊の中ではなく、外にあるんですね。

安 うん、外にある。横にあるの。

梁 すぐ横に？

安 うん。防空壕もそこにあるし。

梁 防空壕はどこに？

吉見：ある元日本軍「慰安婦」の回想（4）

安 とにかくその側にあった。  
尹 ハルモニがいた家はどんな形をしていましたか。  
安 家はみすぼらしい家だったよ。  
尹 土で作った家ですか。  
安 塀は土塀だけど、家はベニヤ板の家もあるし、そんなもんよ。スレートの家もあるし。  
梁 いろいろあるんですね。煉瓦造りの家はないんですか。  
安 ないよ。あったとしても土煉瓦〔土塗り煉瓦〕だよ。土を外に塗ったやつ。  
吉見 その家は平屋ですか、二階建てですか。  
安 平屋。  
吉見 ハルモニが入れられた部屋はどれくらいの広さでしたか。  
安 大きさはこの部屋〔約4m×4m〕くらいよ。でも、その部屋に何人かが一緒にいたのよ。  
尹 じゃあ、軍人の相手をする時は？  
安 相手をする時は……、アイゴー〔顔を背けて言いよどむ〕。  
尹 一緒にいる部屋で相手をしたんですか。  
安 〔顔を背けたまま〕一緒にいる部屋の時もあったし、空いてる部屋があればそっちに行くこともあったし。人間じゃないよ、獣の生活だよ。  
尹 一つの部屋で女性たちが何人くらい一緒に暮らしていたんですか。  
安 3、4人が一緒にいたかな。  
梁 この部屋くらいのところに？  
安 〔無言で頷く。〕  
尹 じゃあ、その部屋に軍人も3、4人が一緒に入って来て女性たちを犯すんですか。  
安 〔無言で頷く。〕  
尹 時には他のところに行ったりもして？  
安 〔無言で頷く。〕  
吉見 寝るのは寝台ですか、床にそのままですか。  
安 寝台なんかはないよ。  
梁 じゃあ、布団を敷いて寝るんですか。  
安 うん。  
梁 布団はあったんですか。  
安 布団はあった。  
吉見 お風呂はないんですね。  
安 〔無言で頷く。〕  
尹 ハルモニは「獣のようだ」と昔からよく言っていたんです。「獣のようだ」という表現が、ハルモニたちがよく言う表現なのだとばかり思っていました。今話を聞いて、その意味が初めて分かった気がします。  
吉見 獣のような軍人が多かったと思うんですが、少しまともな軍人もいましたか。  
梁 ハルモニが「獣のようだった」と言うのは軍人たちが獣のようだったという意味ですか、ハルモニたちの暮らしが獣のようだったという意味ですか。  
安 私たちが獣のような生活だったという意味よ。  
吉見 良い軍人はいなかったんですか。  
安 良い人もいたよ。  
吉見 どんな？  
安 ただ身体をなでるだけで出て行く人もいたし、何か食べたかと聞いてくれる人もいました。  
吉見 軍人の名前は覚えていませんか。  
安 名前も忘れたよ。何とかって言っていたけど。  
梁 当時は知っていたのですね。  
安 〔無言で頷く。〕何て言ったかなあ。分からない、忘れちゃった。  
梁 一つの部屋で、例えば布で間仕切りをしたりもしなかったんですか。  
安 間仕切りしたところもあった。カーテンみた

いなので仕切ったり、そんなの垂らしてみたところで一部屋なんだから大して変わりはないよ。同じようなものよ。

尹 ハルモニのいた部屋は間仕切りもなかったんですか。

安 〔頷く〕

吉見 食事はその部屋でするんですか。食堂が別にあっただけですか。

安 外に出て、台所で。台所が外にあったの、食堂みたいに。そこで食べた。時々あの人たちがお餅をくれたこともあったよ。また餅つきの時に見に来てって言われて見物したこともあったよ。

でも、あの時の餅〔「モチ」と日本語で発音〕は本当に美味しかったのに、最近の餅はどうして美味しくないんだろう。

吉見 餅つきというのは日本式の臼と杵でつく？

安 はい。

吉見 軍人たちがするんですか。

安 うん。本当に美味しいのよ。私が餅が好きだからって、甥っ子〔兄の長男〕が買って来てくれるのよ。その写真に写ってるのが兄よ。

尹 ハルモニがお兄さんよりも骨格がいいのね。お母さん似なんでしょう。

吉見 その家から逃げ出した女性はいませんでしたか。

安 いなかった。逃げられるわけがないでしょ？ すごく遠くまで来てるんだから。逃げる途中で銃殺されろって言うの？ 歩哨に立ってる人がたくさんいるのに？ 軍人たちが銃を持って道も行き来したりしてると、周辺をぐるぐる回ってるのに。

吉見 周りに山は見えましたか。

安 山も見えませんでした。平原だよ。だだっ広い原っぱ。

吉見 土の砂漠なのか、砂の砂漠なのか。

梁 最初の砂漠でなく、空き家のあったところも砂の砂漠でしたか。

安 うん。砂。

吉見 黄色ですか、黒ですか。

安 いいや、黄色のような気もするし、白のような気もするし。きれいな砂よ。

尹 どこかしら？

安 満州のどこかだと思うよ。

吉見 地名は覚えていませんか。

安 覚えてない。

梁 ハルモニはそこで日本語を覚えましたか。軍人たちが何を言っているのか分かるようになりましたか。

安 少し分かるようになったけど、今では全部忘れちゃって。

尹 「可哀想、可哀想」って言われたそうです。

#### 再び最初の性的被害について

梁 ハルモニ、最初の砂漠で軍人たちに初めて犯された時、本当に驚かれたでしょうね。

安 アイゴ、言葉にできないよ。

尹 そんなところに連れて行かれるとは思わなかったでしょ。

安 アイゴ、切れて、血は出るし、アイゴ。あのことを思い出すと、ぞっとするよ。

吉見 その時のテントの色はどんな色でしたか。

安 国防色〔カーキ色〕。

吉見 どのくらいの大きさのテントでしたか。

安 テントの大きさは3、4人が寝られるくらいの大きさ。

吉見 この部屋くらいですか。

安 うん。

吉見 そういうテントがたくさん並んでいた？

安 そういうのもいくつかあったし、こんなふうに四角く〔長方形に〕建てたのもあったし、こん

なふう三角に建てたものもあるし。

梁 そうというのが何十個もあるんですか。

安 たくさんあったよ。その部隊が大きかったから飛行機が飛んで来て爆撃したんだと思うよ。そうじゃない？

梁 では、その時にテントを張ったその部隊と一緒に移動したんですか。

安 一緒だったのかどうか、そこにも部隊があったんじゃない？

梁 移動する時にトラックがたくさんあって、その中の1台にハルモニたちも乗っていたのかどうか。

安 うん。

梁 ハルモニたちだけで行くのではなくて？

安 ちがうよ。うん、一緒にも行くし。

梁 そのトラックはすごく多かったですか。

安 でも、そこに残る軍人もいたよ。私たちが移るところと一緒に移る軍人もいたし。

吉見 ハルモニたちがいた家以外にも、女性たちがいる家があったのでしょうか。

梁 後から行った空き家のあった場所では、他にも女性たちがいた家がありましたか。

安 他は分からないよ。出てみたことがないから。他は分からない。

梁 とにかくその家には5、6人？

安 うん。

梁 ハルモニが一番若かったんですか。その5、6人の中で。

安 同い年もいたし、1、2歳上もいたし。私よりもずっと上、5、6歳上の人もいたし。

#### 帰還後の家族の反応と対人忌避症

梁 帰って来た時、ハルモニがどこに行き来たか、家族は知っていましたか。

安 知ってたよ。

梁 話したんですか。

安 うん。お母さんが泣いて泣いて、大変だったよ。言葉にできないよ。抱き合って泣いて、話して……。あれをどう表現したらいいの、アイゴー。

尹 お兄さんも知っていましたか。

安 お兄さんも知ってたよ。

梁 お兄さんが軍隊に行ったら、そういう女性も見たでしょうね。

安 [頷く.] 兄さんも知ってたよ。兄さんも知っているから、最初に私が大邱に住んでいた時に、兄と兄嫁が最初に申告したんだよ。私は[申告したことを]知らなかったんだよ。後でソウルに来た時にその話を聞いたのよ。私は申告したことも知らなかったの。

吉見 お母さん以外には話していない？

安 [頷く.]

梁 お兄さんは感づいたということですね。

安 そうでしょ。そういうところに行き来たということ以外には、お兄さんは何も知らないよ。

尹 それで申告様式が、そういうところに行き来たということ以外には「対人忌避症」としか書いてなかったんですね。ハルモニは20歳くらいの時に舌癌にかかって舌を半分くらい切除したんです。丸く切ったの。でも、また生えて来るのよ。当時はうまくしゃべることもできなかったんだけど。

吉見 対人忌避症というのは？

安 [無言で笑う.]

梁 解放後、帰って来てからずっとそうだったんですか。

安 うん。私は人が嫌なの。人に会うのが嫌。

梁 それでもマッコリ商売〔飲み屋〕をやるためには接客もしないといけませんよね？

安 生きて行くためだもの、仕方ないじゃない。

梁 じゃあ、申告をした頃は？

尹 お兄さんが申告はしたんだけど、ハルモニは全然会ってくれなかった。私の自宅が水原だからしつこく連絡を取って、2002年になってやっとハルモニが来てもいいって言ってくれて会うことができたんです。

梁 私が尹さんと一緒に初めて安ハルモニの家に来たのが2004年でした。

尹 そう、その頃だと思う。初めてハルモニの家に来た日も雨が降っていたでしょ。私がいつもハルモニに言うの。どうしてハルモニの家に来る時はいつも雨なんだろうって。

#### 再び移送について

吉見 遡りますが、列車に乗った時、同じような女性がたくさん乗っていましたか。

安 民間人がたくさん乗ってたよ。

梁 女性はハルモニと一緒にいった12、3人だけ？

安 うん。

吉見 軍人は何人くらい一緒に行きましたか。

安 列車に？最初にトラック乗って行ったのと同じだと思う。

吉見 何人くらい？

安 そういう人たちは、5人とか、6人くらいかな？

吉見 その軍人たちは中国に着いてトラックに乗る時にもまた一緒に乗って行ったんですか。

安 最後までずっと一緒だったよ。

梁 テントにも、空き家にも？

安 うん、うん。

梁 当時、その人たちの名前は知っていましたか。

安 分からないよ。

梁 その人たちと話はしなかったんですか。

安 日本語が出来なきゃ話も出来ないじゃない。

梁 朝鮮人は一人もいなかったんですね。

安 朝鮮人はいなかったよ。

吉見 その軍人たちは、家に届けたらいなくなっただんですか。それとも、その後も会うことがあったんですか。

安 会ったよ。

梁 じゃあ、その人たちはその部隊にいたんですか。

安 うん。

梁 その空き家に着いた後は、どんな時にその人たちに会ったんですか。その人たちも一軍人として来るんですか。

安 そうだよ。みんな軍人だもの。

梁 じゃあ、その人たちの相手をしたことがありますか。

安 [無言で頷く.]

梁 じゃあ、私を連れて来た人だって分かるんですね。

安 [頷く]

尹 その人たちの名前は分かりませんか。

安 もうみんな死んだでしょう。名前が分かっただからってどうするの。

吉見 病院の看護婦さんの名前とか、軍医の名前は覚えていませんか。

安 [首を横に振る.]

梁 そこで軍人たちは女性たちをどのように呼びましたか。名前を呼んだんですか。

安 ヤシタ。

梁 ハルモニの名前がヤシタ？

安 うん。

梁 それ以外に思い出す名前はありますか。

安 分からないよ。

梁 他の女性の名前は分かりませんか。

安 ヨシコとか何とか。

梁 ちょっと独特ですね。ヤスダではないです

吉見：ある元日本軍「慰安婦」の回想（4）

か。

安 分からないよ。姓が安だからヤシタじゃないの？

梁 それじゃあ、やっぱりヤスタじゃないですか。名字ならヤスタだと思うけど。

安 分からないよ。ヤシタかヤスタか。

梁 「慰安婦」という言葉を聞いたことはありませんか。

安 あそこではそんな言葉は聞いたことがないよ。最近も、テレビで「慰安婦」ハルモニがどうのこうのって言うと、私は本当に聞きたくないのよ。この方はこの話を聞いて行ってどうするつもりなの？

吉見 これを記録に残して日本軍が何をしたか日本人に広く知らせることが一つ。そして出来れば日本人の意見を変えて謝罪と賠償ができるようにしたいと思っています。

安 アイゴ、ありがたいね。ご苦労さまです。

吉見 私の方こそ辛い記憶を話していただいてありがとうございます。

安 私の方がありがたいよ。同じ日本人同士でたかうのは本当に大変でしょうに、私たちのためにこんなふうにしてくれて本当にありがとう。ご苦労さまです。

梁 ハルモニは大邱にも長くいたんですか。

安 長かったよ。

梁 だから慶尚道の方言も使って、ソウルの言葉も使うんですね。

尹 2002年に会った時に、大邱から水原に来て10年って言っていたから、20年以上経ちましたね。すっかり水原の人になりましたね。

吉見 長時間、貴重なお話をありがとうございました。

（商学部教授・日本現代史）